

空の下で芝居見物

旅芸人の一団がやってきた。

広い家の庭を借りて幟を立ててすそばに舞台がつくられた。

拡声器（スピーカー）から流れる歌にフクフクしながらその日の晩は、はんはささきとすませたんやさ。

父ちゃんや母ちゃんにつれられて芝居小屋に急いだ。

喜んでは自分だけやと思つたら父ちゃんと母ちゃんの顔がいつもよりほろほろんごつた。木戸銭を払つて中に入ると土の上におしろが敷かれとつてその上を走るようになって

ちやっと場所奪りをしたんやさ。見物する席に座つてほつとしながら空を見

上げたらお星さまが光つてごぞつた。

舞台の上で見せるはなやかさと修練を積んだ芸と技に心がときめいてウツトリしてまいったんやさ。それからしばらくは醒めきらん余韻の中にずつとひたつとつた。



拡声器

演じられるのは時代劇が多かつた。

♪ ぶかしさむらいさんは本気になつてチャンバラした・・・♪

唄えますか?!

娯楽が少なかつた時代、旅芸人の芝居や踊りは公演の先々で人の心を和ませ明るくしたと聞く。

協力

棚橋 鈴子さん (69歳)

あの頃の『広報あんぱち』

～平成4年8月号の記事より～

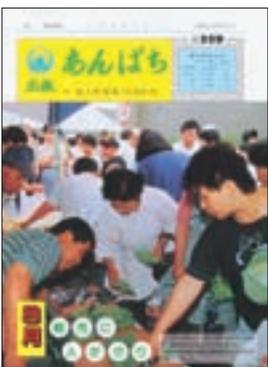
消防操法大会～日頃の訓練の成果を披露～

平成4年6月28日（日）

あの頃を振り返って

安八町牧 在住
金森 勝由 さん

◎当時、金森勝由さんは安八町消防団第3分団1部の副班長としてご活躍されていました。



▲表紙

消防団に入団する前は「消防は火災が発生したら急いで現場に行き、早く火を消せばよい」と、安易に考えていました。

その後、安八町消防団（第3分団1部）に入団しました。

最初は「なぜ、こんなにしんどい訓練を毎日しなければならないのか」と愚痴ばかりでしたが、次第に「どうせやるなら優勝を目指そう」と自分も仲間も訓練に対する士気が高まってきました。

実際の火災現場では自分の担当部署だけではなく、それ以外の部署も務めなくてはなりませんし、何よりも活動自体が命に直結しています。そのために厳しい訓練を繰り返しているのです。

今、振り返れば全てが懐かしい思い出です。できることであれば、もう一度現場に復帰したいと思っています。



▲消防操法大会（まちのトピックス）